



日本福音ルーテル室園教会 牧師  
熊本YMCA常議員 上通国際交流運営委員 西川 晶子さん

## 私が牧師になった理由

キリスト教との出会いは中学生の時。ひどい反抗期を理由に、先に教会に通っていた母親に、熊本市内のキリスト教会へと連れていかれます。「神様なんていない、非科学的だ」と思いつつ、反抗が治らないまま礼拝出席が続きました。そして、高校2年生の頃に補導。母親が「この子は神様に任せるしかない」と教会に洗礼をお願いします。反抗するのも面倒で受けた洗礼ですが、「一応洗礼を受けたのだから」と、教会に通い続けるうちに、「家でも学校でもない、もうひとつの居場所」と感じるようになったと言います。

中学校の教師を目指し、大学は教育学部に進学。間もなく、授業の空き時間に何の気なしに始めたのが、重症心身障がい児施設でのボランティアでした。これをきっかけに、障がい児教育に関心を持ち、教育学部を修了後に同大の特殊教育特別専攻科に入学。養護学校教諭の免許取得後、嘱託の言語療法士として熊本県こども総合療育センターで勤務することになりました。

「そこで、発達上の課題を抱えた子どもたちやその親御さんたちと出会いました。ある保護者から『自分が何か悪いことをしたから、この子がハンディキャップを持って生まれてきたのかと悩んだ時期もあった。でも、この子に会えてよかった』と言われました。その時、同じような悩みを持った人たちに『そ

## 流れに身を任せて

んなことはないよ、私がそうだったように、あなたも、お子さんのことも神様は大事に思ってくれているよ』と伝えたくてたまらなくなったのです。ちょうど、私自身が『これまで反抗し続けてきた自分を神様はずっと見ていてくれた』と感じる経験をしたばかりでした」。

これをきっかけに、西川さんは牧師になるために神学校に入学。卒業後は山口、北海道と各地で牧師としての経験を積み、2011年、故郷熊本の日本福音ルーテル室園教会に着任しました。教会のスローガンである「ホッとする教会」となることを目指し、聖書の言葉を伝えています。

## YMCA学院では“映画の先生”

教会での働き以外に、ルーテル学院中学校とYMCA学院で聖書やキリスト教の教鞭もとっています。特にYMCAの学生には「映画を教材にする先生」として評判です。最近、使った映画は『あん』。今年9月に亡くなった樹木希林さん扮する「徳江」は元ハンセン病患者。ある時、徳江は小さなどろ焼き屋で働き始めます。徳江の手作り粒あんで店は大繁盛。ところが心ないうわさで客足は遠のき、徳江は店を去ります。

西川さんは語ります。「聖書には『重い皮膚病』という箇所がたびたび登場します。そこからはその時代の差別や偏見が垣間見えます。私がこの映画を教材にして学生に伝えたかったのは、生きることの尊厳と宗教への向き合い方。聖書の受け取り方によりハンセン病に対する偏見が助長された過去もあり、そのことも授業の中で伝えます。キリスト教『絶対主義』への私なりのアンチテーゼです。それらを学生たちに伝えるには、いい教材だと思いました。映画を教材にすることで、学生たちも関心を持ってくれます」。



## 流れの根底にあるもの

室園教会には様々な形で、子どもたちや中高生が。牧師執務室は彼らのための「マンガ部屋」を兼ねており、開放されています。その中には西川さんお気に入りのマンガも並んでいます。外での仕事から帰ってきた時に、出る前とマンガの位置が変わっていて、「留守中に誰か来たな」と思うこともしばしば。

「牧師として特別な何かをしたいというよりは、神様の愛を伝えたい、という気持ちがあります。その中で、今置かれている状況の中でできることをする、というスタンスです。最近、教会を中高生の活動に使ってもらえる機会も増えてきました。若い人たちがここで大切なことを学び、世に出て行ってくれるといいと思います」。

奥の集会室からはちょうど、学生YWCA・YMCAで活動中の、高校生たちの明るい声が聞こえていました。

## Pickup

今年は済州島で開催。  
第29回日韓YMCA  
医師蹴球交流



「楽しいね!」  
水前寺幼稚園  
わいわい秋まつり

カトリック宇部教会  
仮設団地の住民との  
茶そば&ふぐのから揚げ  
交流(阿蘇)





# I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

12月9日 Sunday

## インターナショナル・チャリティーラン2018

走る  
×  
チャリティ

YMCAインターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会を目指し、全国で開催されています。熊本での開催は3回目。思い思いのコスチュームで走るランナーたちを応援しにきませんか。

当日はフードパークが登場。大阪式いか焼きやパニーニ、地鶏焼きなど、豊富な食バザーが来店予定です。多くの皆さんの来場をお待ちしています。

回 12月9日(日)9:30開会(小雨決行)  
場 熊本県農業公園 カントリーパーク  
(熊本県合志市栄3802-4)

主催 熊本YMCA

詳細はWebサイトを  
ご覧ください。



2019年1月

## 楽しみながら社会貢献 YMCAチャリティプログラム

楽しむ  
×  
チャリティ

各センターでチャリティプログラムを開催。益金は、YMCA募金に充てられます。参加費・各プログラムの実施時間の詳細は、お問い合わせください。

### 中央センター

親子で楽しめるプログラムをご用意しています。プチバザーも開催予定です。

回 2019年1月20日(日)

場 中央センター(熊本県中央区新町1-3-8)

内容 トランポリン、かけっこ、逆上がりなどの体操教室、クッキング教室、パステルアート体験等

受付 Web受付 12月24日(月)12:00~1月18日(金)18:00

問い合わせ Tel 096-353-6391

### みなみセンター

大人気の食品サンプル作り、わくわく科学体験など、お友だち、家族で楽しめるプログラムが盛りだくさん。

回 2019年1月20日(日)

場 みなみセンター(熊本県南区田迎5-12-50)

内容 食品サンプル作り、ペーパークラフト、わくわく科学体験、食バザー、体操プログラムなど

受付 12/17(月)より電話または窓口にて予約受付

問い合わせ Tel 096-378-9370

### ながみねファミリーセンター

「みんなの笑顔が世界につながる1週間」。ゲームに参加して、おいしいものを食べて、楽しみながら募金をしよう。

回 2019年1月19日(土)~25日(金)

場 ながみねファミリーセンター(熊本県東区長嶺南3-1-107)

内容 1/19(土)のみ…ポップコーン、ライン工房クッキー、型抜き

1/19(土)~1/25(金)…くじ引き、ストラックアウト、ガレージセール

申し込み不要 問い合わせ Tel 096-385-0676

### むさしセンター

逆上がり教室、親子コーディネーションが毎年大人気。カリッとジューシーなからあげなど、食バザーもお楽しみに。

回 2019年1月20日(日) 場 むさしセンター(合志市幾久富1866-1339)他

内容 逆上がり教室、親子コーディネーション、水泳苦手克服レッスン、プール開放、親子サッカー、親子マラソン、のみの市・食バザー

受付 12/17(月)より電話または窓口にて予約受付 問い合わせ Tel 096-248-6334



12月11日 Tuesday

## 市民クリスマス2018 Migiwaチャリティーコンサート

チャリティ  
×  
音楽

今年の市民クリスマスは、ゴスペル・シンガーソングライターのMigiwaによるチャリティーコンサートを実施します。コンサートの益金は、熊本地震復興支援活動などのために用いられます。

回 12月11日(火)18:30開場 19:00開演

場 くまもと森都心プラザホール

チケット 大人 1,500円/学生以下 1,000円

※全席自由 未就学児無料

主催 市民クリスマス実行委員会

チケット取扱い 熊本YMCA各センター



1月30日 Wednesday

## 熊本バンド結盟143周年早天祈祷会

キリスト教  
×  
祈祷

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった熊本バンドの143周年を記念して早天祈祷会を開催します。

回 2019年1月30日(水)6:30~7:30

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

奨励「熊本バンドと基督教青年会の歴史物語」小山哲夫さん

小山哲夫さんプロフィール

1948年、滋賀県近江八幡市生まれ

ヴォーリズ学園・関東学院大学文学部

英米文学科卒。1972年来熊、熊本YMCA総主事を経て現在、日本YMCA同盟学生YMCAコーディネータ。

場 熊本バンド143周年記念行事実行委員会事務局

Tel 096-353-6397(熊本YMCA)





## R | E | P | O | R | T

[ 10月20日⇒ 11月10日 ]

## 報告会

## ユースが感動体験を共有 ユースフェスタ2018

熊本YMCAでは今年も災害支援活動、国際青少年平和セミナー、障がいのある子どもたちのキャンプなど、様々な国際交流、ボランティア活動に取り組み、多くのユースリーダーが活躍しました。

10月20日(土)、中央センターでユースフェスタを開催。9つのグループがそれぞれの活動を報告しました。タイ・ユースワークキャンプは、山岳民族の暮らしを写真で紹介。日本との違いに驚きの声があがりました。日韓視覚障がい青少年交流の報告では、「言葉が通じなくても、心が通じ合うこ

とがわかった」と感想が語られました。

発表後は、国連の提唱する持続可能な開発目標(SDGs)のミニワークショップを行い、今の熊本で重要なものについて話し合いました。最後はグループを越えて交流しながらタイグリーンカレーや麻婆豆腐などを堪能。いくつかの感動体験の共有、SDGsの学び、交流が、参加者が今までと違った物の見方や多様性に気づききっかけとなればと思っています。

職員 大宅登貴子



## 社会貢献

## トークセッション 子どもたちのためにできること

10月26日(金)、桜の馬場・城彩苑にある多目的交流施設でYMCAフィランソロピー協会年次総会を開催。この一年の足跡を振り返るとともに、学生ボランティアの活動事例から、地域における次代の人材育成について考えました。

YMCA国際ユースボランティアで熊本大学の澁谷明佳さん、前山夕歌さんが「学生から見た児童養護施設の子供たち」をテーマに、現在行っている児童養護施設慈愛園での活動を紹介し、企業・地域との連携について提案。施設で暮らす子

どもたちを対象とした支援について、二人は「同じ子に継続して関わることを一番大切にしています」と話しました。児童養護施設の職員も参加する中、グループに分かれて「自分にできること、それぞれが協力してできること」について意見を交換。参加者からは、「一企業では難しい支援も、様々な業種の企業と大学生などが連携することで、できることが広がるのではないかと認識することができました」と感想が寄せられました。

職員 原美幸



## 周年行事

## 熊本YMCA福祉会55周年 記念式典を開催

1963年4月に尾ヶ石保育園が開園するのに先立ち創立した社会福祉法人熊本YMCA福祉会。現在は阿蘇市で4保育園、熊本市の中央センターで就労支援センターを運営しています。

11月10日(土)に熊本YMCA福祉会の55周年を祝う式典を黒川保育園で開催しました。第1部礼拝に続き、第2部式典では阿蘇市長の佐藤義興さんから来賓から祝辞が述べられました。また、元理事の田中善一さん、元職員の大木博子さんに感謝状を、55周年を記念して園児たちのためにプラン

コを作成した阿蘇中央高等学校に記念品を贈呈しました。第3部では、熊本地震以降、度々阿蘇を訪れ支援活動を行っているミュージシャン&マジシャンの大友剛さんによる「ねこのピート」絵本の読み聞かせや音楽、マジックで、100人を超す参加者に元気が届けられました。

最後に、熊本地震の復興、未来を担う子どもたちの成長を願い、大空にむけて150個の風船を飛ばして記念式典を終了しました。

職員 久保誠治



# 岡 総主事の タラン トン Vol.54



## 今日こそ最良の日

“今日という日は、自分にとって、「一番若い日」”

この言葉は2年前に亡くなられたシスター渡辺和子さんがよくおっしゃっていた言葉だそうです。今日という日は、「一番歳をとった日」と思えますが、「これからの人生で、今日より若い日はない」とも言えます。過去を振り返って嘆くことも、先のことを思い悩むこともなく、一日一日

を、人生の最良の日として全力で生きるシスターの優しい笑顔が思い浮かび、励まされる言葉です。私たちは、様々な葛藤に遭遇し、逃げ出したくなるような局面もあります。しかし、その時こそが大切です。試練に対して、どのように行動していくのか。「今日こそが最良」と捉え、様々な出来事に向き合っていきたいものです。

アドベントと共に喜びをもってクリスマスを迎える季節となりました。世界中で貧困、紛争、差別などで虐げられる方々、国内においても災害などで困窮されている方々がいます。そのことを忘れることなく寄り添う者として、できることに取り組んで行きたいと思います。

「願う、希望する」というのは誰にでもできることです。しかし聖書で示されている希望とは

単なる願いごと、たとえば、「何を食いたい」、「何を着ようか」など、個人がこうしたいとかあしたいというものではありません。一方的で自己中心的な祈願自体が、神様の期待している姿からずれてしまっていることに気づかなければなりません。私たちは生身の人間で、世俗的な要望があります。辛い時は、何とかしてほしいと願うのは、当然です。しかし神の御旨を尋ねることを全くしない希望は、もはや聖書で示されている希望ではないのです。

YMCA年末募金が始まりました。国内外で、遠い異国で、寒さや飢えで苦しんでいる子どもたちに思いを馳せ、皆様の尊い支援をお願いいたします。小さなこと、ひとつひとつに、愛をこめていければ幸いです。

t a l a n t o n



## 寅さんとキリスト教 ～人生の喜怒哀楽を巡って～

熊本YMCA創立70周年記念式典で行われた、日本キリスト教団神奈川教区巡回教師・関田寛雄さんによる記念講演の一部を抜粋してご紹介します。

私は映画「男はつらいよ」と山田洋次監督の長年のファンです。作品が持つ、人間の喜怒哀楽に対する深い洞察と人間愛をはらみつっ心に迫るユーモアは、キリスト教の教えにも通じる真理を持っているように思います。

十数年前、ある雑誌の対談で、山田洋次監督とお話する機会がありました。監督は、少年時代を過ごした旧満州で出会ったクリスチャンの医学生と、厚い親交を持っていたそうです。後に牧師となった彼の影響か、映画でもキリストの教えを示唆するようなシーンが多く出てきます。14歳で日本へ引き揚げ後に過ごした貧しい日々も、山田監督の作品に溢れる「名もなき民衆の中にあるたくましさ」と「優しさ」の土台となっています。

一方で「男はつらいよ」の主役・寅さんを演じた俳優の渥美清さんは、貧しい少年時代、父と断絶して家出し、浅草に住んでテキ屋に学んで芸能界に入った人物。その後、俳優となった20代で大病に冒され、肺を1つ失うという十字架を背負います。それでも役者としてユーモアを演じ続けました。

奥様がカトリック信者であったこともあり、晩年、彼は病床で洗礼を受けます。

このような背景を持って生まれた映画「男はつらいよ」には、キリスト教と大きな類似性を感じます。キリストも寅さんも、生い立ちから傷を持つからこそ、傷を負ったものに寄り添うメンタリティを持ち、寅さんの言葉は多くの人を肯定する「福音」となります。大学受験に失敗して落ち込んでいた甥の満男に「人間は何のために生きてるのかな」と問われ「生きてさえいればな、あゝ生まれて来てよかったなって思うことがあるんだよ。そのために人間皆、生きてんじゃねえのか」と励ますシーンが印象的です。常に庶民の味方で、「それを言っちゃあおしめえよ」という言葉から感じる反権力への姿勢と優しさ、そして登場人物の間で和解をもたらし、新たな道を拓く姿。聖書の一番大事なテーマが、独特のユーモアで語られているように感じます。

自由と愛に満ちた寅さんが民衆にもたらす救いは、イエスの隣人愛につながるもの。人に真理を語る際、時には人を傷つけるものになります。しかし、愛を持った真理の発言は、人の心に届き、救い生かすのです。その大切さを、私たちはこの映画から感じることができると思います。



関田寛雄さん

1928年、北九州生まれ。  
日本基督教団神奈川教区巡回教師

## Snap

読者の皆さんから寄せられた写真を紹介します。



「初めての運動会♪」  
投稿者：けいとん(体育英語幼稚園保護者)  
@YMCA体育館  
いっぱい練習して頑張った運動会!! みんな金メダル!!



「1年分？」  
投稿者：むらけん  
@中央センター  
中央センター前進祭で、歯ブラシとったぞー!

## 写真募集中

YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。採用された方にはオリジナルノートをプレゼント!

応募はこちら▼



※画像サイズは横幅900pixel×縦幅600pixel程度以上(横長の場合)で著作権、肖像権を侵害するおそれのないものに限りま。

次号は1月・2月合併号として、1月中旬に発行予定です。

## わたしと聖句

マタイによる福音書2章3節

これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。

「クリスマスおめでとう」  
って言えなくても

聖書の伝えるクリスマスの出来事で、登場する人々は必ずしも救い主の誕生を歓迎していません。ベツレヘムの宿屋が満員で幼子イエスは飼葉桶に寝かされたという話はそのことを象徴的に表していますし、またヘロデがキリストの誕生の知らせを聞いて「不安を抱いた」という話もそうでしょう。

ヘロデの不安にわたしたちの罪の闇がよく表されています。わたしたちも素直に喜べない、おめでとうが言えないことがあります。人の成功や喜びにむしろ心がざわつき穏やかではないことがあります。そこには自分よりも優れたもの

や、自分の立場を揺るがすものに対する抵抗があるのです。そういった心情は誰もが身に覚えがあるのではないのでしょうか。

しかし神さまは救い主の誕生を歓迎してないわたしたちであることを百も承知で愛する独り子をお与えになりました。どうしてでしょう。それは素直に喜べない、おめでとうが言えない、そういうわたしたちを受け入れてくださるためです。そしてそのようなわたしでさえも神さまが愛し救ってくださることを知るならば、そこからまたわたしたちは新しく変わるることができるのです。

一年を振り返るといろいろなことがありました。時に悲しみ、不安を抱き、自暴自棄になることもあったでしょう。確かに「おめでとう」とは言えない現実があります。それでも神さまはわたしたちを愛してくださるのです。来年は、もっと喜びを分かち合い、素直に「おめでとう」が言えるわたしたちでありたいですね。

日本キリスト教団錦ヶ丘教会  
川島直道

発行所／(公財)熊本YMCA  
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8  
TEL 096-353-6397(代)  
発行人／岡 成也 編集人／因幡 亮治  
定価60円 購読料は会費に含む  
[www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)



### 熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動  
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

### 2018年度基本聖句

コロサイの信徒への手紙 3章14節  
愛を身に着けなさい。  
愛は、すべてを完成させるきずなです。